

携帯メールを利用した留学生に対する日本語指導の実践報告 ～日本語能力試験1～2級合格者に対する表現力指導の効果について～

山本 健治・水田 直美*・土井 佳彦**

倉敷芸術科学大学大学院人間文化研究科

*倉敷芸術科学大学芸術学部

**倉敷芸術科学大学留学生別科非常勤講師

(2004年9月24日 受理)

§ 1. はじめに

留学生への日本語指導に携帯メールを活用することの意義、および指導に際しての留意点について、教育的実践をふまえて報告する。

日本で生活する外国人の多くは携帯電話を利用している。本学に在籍する留学生たちにとっても、携帯電話は生活に欠かすことの出来ない必需品のような存在となっている。日本語を母語としない人々が国内で携帯電話を利用する方法としては、音声による会話のほかに、携帯メールやインターネット閲覧など文字等による通信がある。携帯電話の利用が世界的に普及している理由は、その簡便さと双方向性にあると考えられるが、さらに携帯メールには時間にしばられないことと、記録が残せるという大きな利点がある。本学留学生に対し、2003年6月に携帯メールの活用状況に焦点をあてたアンケート調査を実施した結果、教師が留学生の日本語指導に携帯メールを活用するのはかなり有意義であろうと考えられた。さらにアンケート調査と並行して、漢字圏からの1～2年次留学生の中から希望者を募り、実際に日本語による表現力の指導をしたところ、日本語能力試験2級合格程度以上の留学生に顕著な効果があった。また留学生ならではの留意すべき事情も明らかにされた。本論では調査報告とあわせ、携帯メールを使用した日本語指導での顕著な事例をいくつか紹介する。なお本報告は、日本国際文化学会第2回全国大会（2003年）において発表した内容に手を加えたものである^{注)}。

§ 2. 携帯メール使用状況に関する留学生アンケート調査結果

倉敷芸術科学大学の留学生を対象に、携帯電話の各機能の使用状況、携帯メールの送受信相手や通信内容等をアンケート調査したところ、付録にある通り、通話や時計の機能に続いてよく利用されているのが、メール、カメラ等の機能である。特にメール機能は時宜を選ばず、簡単な操作で、相手に気兼ねなく通信できるところに人気があるらしい。留学生がメールを送受信する相手としては留学生が最も多く、それから日本人学生、教員・職員と続く。またメールで使用する言語として日本語が広く使用されている。中国からの留学生は日本国内外の同国人に対して、携帯メールで使用できない漢字を表現する時、ピン音の代用としてアルファベット

もよく利用している。携帯電話の所持率は高く（96%）、メール機能の利用率もかなり高い（76%）。日本人大学生では携帯メールの利用が携帯電話の利用を凌ぐという調査結果がある¹⁾。本学の留学生で携帯メール利用率が少し低いわけは、日本で利用できる携帯電話に言語的制約—つまり簡体字が使えないなどの制約があり、その分通話機能に流れているからだと考えられる。この事情を考慮すれば、携帯メールの利用率76%はかなり高いと言ってよいだろう。このことから推して、携帯メールを日本語学習のための道具として活用することが有効だと考えられる。

§ 3. 携帯電話のメール機能を活用した日本語指導実践例

留学生の日本語指導のために携帯メール機能を活用する。留学生から送信されてきた日本語でのメールの文章を添削して送り返すのである。この一見奇妙な計画は、山本が日ごろ多忙な留学生と接するたび、進歩が停止した日本語能力を耳にするたびに、言語能力をエンカレッジする有効な手段はないものかと思案を重ねて思いついた。それゆえ今回の実践は端緒に就いたばかりの荒削りな段階にある。著者たちはこの種の教育的試みにある程度の収穫を確信し、3つのグループに分けた全部で8名の学習者を相手に実践に取り組んだ。そして実践して得られた成果の中から、被験者の使う敬語の間違ひに関する分析結果を発表した²⁾。留学生とのこれまでのメール通信の経験から、添削指導が効果的だと判断できる学習者を次のように絞り込んだ。すなわち日本語能力が中級（日本語能力試験1～2級合格者）程度以上を想定した留学生の中から、希望者を募って計画を実行した。

【指導方法】

学習者（S）から教師（T）にメール送信されてきた日本語の文章を教材として活用するメール学習である。通信の簡単なこと、時間的束縛が少ないこと、記録が残せること、双方向性などを存分に活用して添削指導する。必要に応じて週に一、二回の面接指導もする。

【学習形態】

二つの型に大別される。その一は、本学国際教養学部の全学年で実施中（2003年度現在）の小人数ゼミに含まれている日本語学習にメール学習を組み合わせたもの〔学習形態（1）という〕であり、その二は、メール学習そのものを主とした学習（または学習動機開発の場）に面接指導を組み合わせたもの〔学習形態（2）という〕である。

小人数ゼミ ⇔ メール学習 ⇔ 面接

以下、学習者から教師へのメール文章に見られる特徴を、上記の学習形態別に分析する。

【学習評価】

一定期間（1～1.5ヶ月）実施したメール学習の効果を調べるため、穴埋め形式のテスト（a）の得点によって被験者の日本語能力を評価した。また、アンケート調査（b）によって学習の心理的効果を明らかにした。テスト（a）の穴埋め問題作成においては、被験者のメールに類

繁に見られた誤用例を参照または問題として利用した。アンケート調査 (b) では、質問1として、現在携帯メールで日本語を勉強していることについて、自分自身どのように評価しているかを尋ねた。質問2として、今後も引き続き携帯メールで日本語を勉強したいかどうかを尋ねた。質問1, 2の結果はこの章に記す。その他、質問3, 質問4として、携帯メールで日本語を勉強することの長所と短所についてどのように考えているかを記述してもらった。質問3, 4の結果は次章で触れる。

学習形態 (1) 小人数ゼミに含まれる日本語指導にメール学習を組み合わせる方法：

留学生A (中国語母語話者・女性)

日本語能力 中級 (日本語能力試験2級)
 メール件数 S→T: 25通; T→S: 29通 (T: 教師; S: 学習者)
 小人数ゼミ講数 90分×7回 (1回/週)
 S→Tの文字数 延べ 1,439字, 平均 60字/通
 S→Tの誤用数 延べ 44例, 平均 1.8例/通

典型的な誤用

助詞：携帯で字を打つのが40分かかりました。

(→携帯で字を打つのに40分かかりました。)

助詞：「羨ましい」は中国語を訳すと「羨慕」です。

(→「羨ましい」を中国語に訳すと「羨慕」です。)

ナ形容詞 (形容動詞) を名詞として誤用：

私はエクセルを使って簡単の表が出来ます。

(→私はエクセルを使って簡単な表が出来ます。)

イ形容詞 (形容詞) を名詞, またはナ形容詞として誤用：

それは早ければ早いほどいいだと思います。

(→それは早ければ早いほどいいと思います。)

敬意表現：ちょっと貸してくれてもよろしいですか。

(→ちょっと貸していただいてもよろしいですか。)

「という」の欠落：羨ましい言葉は中国語になおすと、

(→羨ましいという言葉は中国語になおすと、)

学習評価

穴埋めテスト (a) の結果 正答率：60%

アンケート (b) の結果 質問1. 非常によい。
 質問2. ぜひ続けたい。

学習形態 (2) メール学習を主とし、面接指導を組み合わせる方法：

留学生B (中国語母語話者・女性)

日本語能力	上級 (日本語能力試験1級)
メール件数	S→T: 31通; T→S: 25通 (T: 教師; S: 学習者)
小人数ゼミ講数	約40分×7回 (1~2回/週)
S→Tの文字数	延べ 3,313字, 平均 107字/通
S→Tの誤用数	延べ 204例, 平均 6.6例/通

典型的な誤用

助詞: コンピューター室に授業を受けていました。

(→コンピューター室で授業を受けていました。)

時制: 佐藤さんがまねた発音にみんな笑ってますね。

(→佐藤さんがまねた発音にみんな笑ってましたね。)

使役: 学生の発表を聞いていただいて, びっくりしました。

(→学生の発表を聞かせていただいて, びっくりしました。)

敬意表現: いっぱい書いてくれました。お疲れ様でした。

(→たくさん書いていただき, ありがとうございました。)

学習評価

穴埋めテスト (a) の結果 正答率: 70%

アンケート (b) の結果 質問1. 非常によい。

質問2. ぜひ続けたい。

留学生C (中国語母語話者・女性)

日本語能力	初級
メール件数	S→T: 6通; T→S: 7通 (T: 教師; S: 学習者)
小人数ゼミ講数	約30分×4回 (1回/週)
S→Tの文字数	延べ 865字, 平均 144字/通
S→Tの誤用数	延べ 105例, 平均 18例/通

典型的な誤用

助詞: 南の壁の外がもう一つ塀を建てたかったです。

(→南の壁の外にもう一つ塀を建てたかったです。)

助詞: この物語は全部日本語で翻訳することです。

(→この物語を全部日本語に翻訳することです。)

連体修飾: いちばん治安がいいの所になりました。

(→いちばん治安がいい所になりました。)

その他: 話しことばと書きことばの混用。

丁寧体 (~です/ます) と普通体 (~だ) の混用

句点と読点の混用

学習評価

- 穴埋めテスト (a) の結果 正答率：70%
- アンケート (b) の結果 質問1. まあまあよい。
質問2. ぜひ続けたい。

留学生D (中国語母語話者・女性)

日本語能力 初級

メール件数 S→T：13通；T→S：14通 (T：教師；S：学習者)

小人数ゼミ講数 約30分×4回 (1回／週)

S→Tの文字数 延べ 2,041字, 平均 157字／通

S→Tの誤用数 延べ 146例, 平均 11例／通

典型的な誤用

助詞：人が助けると, 自分も幸せになります。
(→人をを助けると, 自分も幸せになります。)

助詞：気持ちを全く変わりました。
(→気持ちが全く変わりました。)

動詞・形容詞・名詞の語尾変化：

メールが届けるかどうかわかりません。
(→メールが届いたかどうかわかりません。)

暇のとき, 日本語を直してください。
(→暇なとき, 日本語を直してください。)

授受表現：先生にメールして差し上げました。
(→先生にメールしました／致しました。)

挨拶表現：どのように週末をお過ごししますか。
(→どのように週末をお過ごしですか。)

その他：話しことばと書きことばの混用

類似語彙 (「問題」と「質問」など)

類似表現 (「～たい」と「～ほしい」など)

学習評価

- 穴埋めテスト (a) の結果 正答率：70%
- アンケート (b) の結果 質問1. 非常によい。
質問2. ぜひ続けたい。

§ 4. 携帯メールを使用するときのメリット・デメリット分析

学習者にとってはメール学習に参加すること自体が、時間的・経済的制約をとまなうことである。そのため、参加の希望があっても参加できない者や、途中で投げ出す者が出てくることは、その限りにおいてやむを得ないことである。しかし、そういった環境のマイナス面も、学習者と教師の双方の熱意と工夫によって、ある程度は改善できる。ただ指導する側とされる側、双方の熱意と工夫は大きく個に依存するものなので、一般性を見出すことはとても覚束ない。私たちは、学習者個人が一定期間の学習後に、メール学習についてどのようなメリット感・デメリット感を抱いているか書いてもらった。これを下記に集約する。

メール学習の長所（メリット感）

- ・ 母語以外の日常会話が少ない環境で、日本語の現在レベルを適度に維持。
- ・ 質問頻度を増せば語彙を増やせる。
- ・ 個人指導で表現上の悪い癖を改善（ゼミでも面接でも可）。
- ・ 返事を書くタイミングに弾力性があり、時間的に便利。
- ・ メールでは直接相手を見ない（聞かない）ので緊張しない（電話と対照的）。
- ・ 会話では省略してしまう言葉も、書かなければ通じないので勉強になる。
- ・ 敬語の勉強になる。
- ・ 宿題のような日課的性格からよく憶えた。
- ・ 辞書と資料もよく使い、いつでも日本語のことを考えるようになった。
- ・ 便利でおもしろい上に勉強もできる。

メール学習の短所（デメリット感）

- ・ メールにしか使えない簡略語であることに気づかないことがある。
- ・ 話題に事欠き、次の送信をためらうことがある。
- ・ 先生に会いたくなってしまう。
- ・ 発音指導がない。
- ・ 打つのに時間がかかる。
- ・ 書きことばと話しことばの区別がつきにくい。
- ・ 書くだけで口頭練習をとまなわない点で、授業より好いとはいえない。
- ・ 敬語は意識的に使わなければ効果がない。
- ・ 間違ったところをすぐに直すことができない。

§ 5. まとめ

以上のように、留学生の日本語指導に携帯メールを活用する意義が認められる。“メール学習”には教育的効果があると言える。指導する側の意図した学習法をよく理解し、意欲的に学

習に取り組む留学生にとっては、携帯メールを用いたメール学習には有意の学習効果が認められるからである。ただし、時間的あるいは空間的な意味で生活の中に埋没しがちな教育の環境ゆえに、留学生には特に注意して一定の配慮を施さなければならない。好ましい態度として、学習者の人格を理解し、学習のプラス指向を創出する条件作りに努める必要がある。メールによる文通は、手紙による文通とよく似た現象を呈することがある。文通をしているうちに相手に会いたくなるというものだ。会って詳細な説明をもらいたいという欲求が生じるのである。添削した返事は、事前の了解の下に、曜日を決めるなどして定期的を送信するのがよい。メール学習を成功させるために、学習者は強い学習の意欲を持ちつづける必要がある。また学習者と指導者の双方が、相手に対する興味、関心を持ちつづけることが重要なのである。小人数ゼミのような学習環境がベースにある場合は、学習者に対する好い意味での強制力が機能するので、あえて個人面接を組まなくてもメール学習の効果は落ちない。しかし、そういった環境がない場合は、個人面接をメール学習に組み込むことによって現われる効果は大きい。特に面接機能を高めていくタイミングの取り方が重要である。

注) この調査報告は、下記の学会での発表をもとに再構成した。

山本健治, 水田直美, 土井佳彦: 「留学生の日本語指導における携帯メールの活用」日本国際文化学会第2回全国大会(2003年7月東京)で発表したもの。

参考文献等

- 1) 田中ゆかり: 「大学生の携帯メール・コミュニケーション」『日本語学』第20巻第10号, pp.32-43 (2001).
- 2) 水田直美, 土井佳彦, 山本健治: 「携帯メールにみられる日本語学習者の敬意表現の誤用」倉敷芸術科学大学紀要第9号, pp.237-247 (2004).

付録

留学生を対象とする携帯電話(メール)の使用状況についての調査

留学生アンケート資料

附録 1

留学生を対象とする携帯電話(メール)の使用状況についての調査

留学生アンケート資料

所属学部名、氏名、年齢、日本語能力など

学部・学科名		学 年				性 別	
国際教養・教養	国際教養・起業	1年	2年	3年	4年	男	女
		7	54	21	9	53	38
91							
年 齢		国 籍		母 語			
22歳以下	23歳～26歳	27歳以上	中国(台)	韓 国	漢語	漢語(台)	蒙古
37	27	28	88(1)	1	79	1	7
4							
日本語能力		日本語能力試験					
中	初	無回答	1 級	2 級	3 級	無	
6	10	7	20	7	6	1	77
91							

質問1. あなたは携帯電話を持っていますか。

1.持っている						2.持っていない	
持っている期間	6ヶ月以内	6ヶ月～1年	1～2年	2～3年	3年以上	人 数	
人 数	11	6	40	17	13	4	
91							
会社・機種						持っていない理由	
会 社	NTT・ドコモ	au	J-PHONE	その他		因为有电脑。没钱，学费交不起，不敢用手机。不经用。等等	
機 種	5	70	11	1			
87							

質問2. あなたはパソコンを持っていますか。

1.持っている						2.持っていない	
持っている期間	6ヶ月以内	6ヶ月～1年	1～2年	2～3年	3年以上	人 数	
人 数	6	0	9	2	8	62	
87							
個人専用			共用				
種 類	ノート型	デスクトップ型	種 類	ノート型	デスクトップ型		
人 数	16	7	人 数	2	0		

附録 2

質問3. 大学でパソコンを使用しますか。

よく使う	20
時々使う	28
殆ど使用しない	33
全く使用しない	6

87

以下は、携帯電話を持っている人だけの答え

質問4. 携帯電話の各機能についての使用状況

1.通話機能

よく使う	67
時々使う	8
殆ど使用しない	8
全く使用しない	1

84

2.メール機能

よく使う	59
時々使う	10
殆ど使用しない	6
全く使用しない	8

83

3.インターネット機能

よく使う	6
時々使う	13
殆ど使用しない	40
全く使用しない	28

87

4.時計機能

よく使う	74
時々使う	5
殆ど使用しない	1
全く使用しない	2

82

5.カメラ機能

よく使う	17
時々使う	8
殆ど使用しない	12
全く使用しない	38

75

附録 3

質問5. 携帯メールの相手について

1.携帯メールの送信先(日本語)

	0件/週	1～14件/週 (～2件/日)	15～28件/週 (2～4件/日)	29～42件/週 (4～6件/日)	43件以上/週 (6件以上/日)	
教員・職員へ	69	19	0	0	0	88
日本人学生へ	58	17	5	1	4	85
留学生へ	26	28	17	7	9	87
その他へ	62	10	2	0	5	79

2.携帯メールの送信先(日本語以外)

	0件/週	1～14件/週 (～2件/日)	15～28件/週 (2～4件/日)	29～42件/週 (4～6件/日)	43件以上/週 (6件以上/日)	
教員・職員へ	82	1	0	0	0	83
日本人学生へ	84	1	0	0	0	85
留学生へ	54	20	6	3	2	85
その他へ	75	3	0	0	3	81

3.携帯メールの受信相手(日本語)

	0件/週	1～14件/週 (～2件/日)	15～28件/週 (2～4件/日)	29～42件/週 (4～6件/日)	43件以上/週 (6件以上/日)	
教員・職員から	74	12	0	0	0	86
日本人学生から	77	13	5	0	3	98
留学生から	31	23	16	9	9	88
その他から	59	15	2	0	6	82

4.携帯メールの受信相手(日本語以外)

	0件/週	1～14件/週 (～2件/日)	15～28件/週 (2～4件/日)	29～42件/週 (4～6件/日)	43件以上/週 (6件以上/日)	
教員・職員から	81	0	0	0	0	81
日本人学生から	80	1	0	0	0	81
留学生から	58	14	5	3	1	81
その他から	73	5	1	0	1	80

附録 4

質問6. 使用状況・理由

1.携帯メールをよく(ときどき)使用する

理由	
a.便利だから(いつでも送受信可)	43
b.扱いやすいので	35
c.音を気にしないでよいので	35
d.電話で話すのが苦手だから	9
e.電話にも切り替えられるので	7
f.パソコンが家がないので	7
g.相手の反応直接感じなくてもいい	14
h.相手をすぐ特定できるので	8
i.時間を取らないので	14
j.その他	10

2.携帯メールをほとんど(まったく)使用しない

理由	
a.不便だから(送受信に手間取るな	5
b.扱いにくいので	6
c.気分的に面倒なので	2
d.文字数に制限があるので	6
e.日本語しか使えないので	14
f.パソコンの方が便利だから	3
g.相手の反応直接感じなくてもいい	4
h.対話に時間差が生じる	10
i.時間がないので	6

質問7. 送受信文の内容

1.その場の出来事や気持ちの伝達	37
2.事務連絡	31
3.特に要件ないおしゃべり	47
4.質問	26
5.相談	17
6.緊急連絡	22
7.所在確認	35
8.予約・注文	8
9.その他	2

An Educational Practice of Training Japanese for Overseas Students by Using the E-mail Function of the Mobile Phone

Kenji YAMAMOTO, Naomi MIZUTA*, Yoshihiko DOI**

Graduate School of Science and the Humanities,

**College of Arts,*

***Courses in Japanese Studies for Students from Overseas,*

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received September 24, 2004)

We researched on the educational effect of training to express better Japanese by using the e-mail function of the mobile phone, for overseas students from Asia in Kurashiki University of Science and the Arts (KUSA). We have practically counseled these students in intermediate level of Japanese in KUSA with much result.